

環境有害性：	水生環境急性有毒性	分類されない
	水生環境慢性有毒性	分類されない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：	危険
危険有害性情報：	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 重篤な眼の損傷

注意書き：

【安全対策】
 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】
 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、保温して呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 吸入した場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合、直ちに医師の診断、手当てをうけること。
 眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。
 眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
 皮膚又は毛に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
 汚染された衣類は全て脱ぐこと。
 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】
 換気の良い冷暗所で保管すること。
 容器の口をしっかりと閉めて保管すること。
 施錠して保管すること。

【廃棄】
 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報：

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物
化学名又は一般名：	汎用アルカリ性洗剤
成分：	水質軟化剤 (既存・非公開)
	アルカリ助剤 (既存・非公開)
	キレート剤 (既存・非公開)
	非イオン系界面活性剤 (既存・非公開)

4. 応急措置

吸入した場合：	ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し、鼻をかんだり、良くうがいをする。なんらかの異常を感じたり、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合：	汚染された衣類を脱ぎ、取り除くこと。 直ちに多量の水でぬめり感が無くなるまで十分に洗い流す。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 その場で痛みなどの症状がなくとも、障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合：	多量の水で最低 15 分間は注意深く洗うこと。まぶたを開いて内側も洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診断、手当てを受けること。 この製品が眼に入った場合、一刻も早く洗浄を始め、入った製品を完全に洗い流す必要がある。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生じる恐れがあるので注意すること。
飲み込んだ場合：	無理に吐かせない。喉頭や食道の炎症、薬傷を悪化させることがある。 口をすすぐこと。 直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤：	水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
消火方法：	本製品は不燃性物質であるが、周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。移動が出来ない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。
消火を行う者の保護：	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立ち入る前に換気する。
環境に対する注意事項：	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
回収、中和：	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所へ導いて回収する。 回収した跡、または回収できないものは、多量の水にて十分に洗い流す。 回収した本製品は酸（希塩酸など）で中和してから排水する。
二次災害の防止策：	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 局所排気・全体換気： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
 安全取り扱い注意事項： 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 眼に入れないこと。
 他の薬剤、洗浄時などと絶対に混ぜない。
 排水は中和処理する。

接触回避：
保管

「10. 安定性及び反応性」を参照。
 技術的対策： 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
 保管場所には、危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気
 の設備を設ける。

保管条件： 酸性物質から離して保管する。
 容器は直射日光や火気を避けること。
 容器を密閉して換気の良い冷暗所で保管すること。
 施錠して保管すること。

子ども手の届かない所に保管する。
 混触危険物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
 容器包装材料： 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 設定されていない。
 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）： 設定されていない。
 設備対策： この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には、洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

手の保護具： 適切な眼の保護具を着用すること。
 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）。
 眼の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。
 呼吸器用の保護具： ミスト状に噴霧して使用する場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。
 皮膚及び身体保護具： 適切な顔面用の保護具、保護衣、ゴム長靴を着用すること。
 衛生対策： 取り扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：	白色透明液体
臭い：	ほぼ無臭
pH：	12.0-13.0（原液、25℃）
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点	なし（不燃物）
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度（空気＝1）：	データなし
比重（密度）：	1.05（原液、25℃）
溶解度：	水に溶解する。
オクタノール/水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
臭いのしきい（閾）値：	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）	データなし
燃焼性（固体、ガス）：	該当しない
粘度：	6.8mPa・s（10倍希釈液、25℃）
その他：	
ヒ素	0.067mg/L以下
重金属	食品・添加物規格基準 厚生省告示第370号洗浄剤成分規格：製品150倍希釈液 1.0mg/L以下 食品・添加物規格基準 厚生省告示第370号洗浄剤成分規格：製品150倍希釈液

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の取り扱い条件（屋内、常温）においては安定である。
危険有害反応可能性：	酸性物質と反応して中和熱を発生する。
避けるべき条件：	酸性物質の接触。 40℃以上の高温下での保管。 直射日光下、解法状態。
混触危険物質：	酸性物質との接触に注意する。 アルミニウム、銅、銅合金などは指定された濃度以外での使用は避ける。
危険有害な分解生成物：	特になし。

11. 有害性情報

急性毒性：	原液 ATE：33,500mg/kg	区分外
皮膚腐食性・刺激性：	強い刺激作用がある。	区分1
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	激しい痛みを感じ、結膜や角膜が侵される。	区分1
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データがなく分類できない。	
生殖細胞変異原性：	データがなく分類できない。	
発がん性：	データがなく分類できない。	
生殖毒性：	データがなく分類できない。	
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）：	データがなく分類できない。	
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）：	データがなく分類できない。	
吸引性呼吸器有害性：	データがなく分類できない。	
製品に関する有害性情報：	データがなく分類できない。	

12. 環境影響情報

移動性	データなし。
残留性・分解性	CODMn 5ppm (0.1%水溶液 ; JIS K0102 1998)
生体蓄積性	データなし。
生体毒性	アルカリ性であるため、原液が河川等に直接流出した場合には、水生生物に対して影響を及ぼすと思われる。
水生環境急性有毒性： 魚類	データ不足のため分類できない。
水生環境慢性有毒性：	データ不足のため分類できない。

13. 廃棄場の注意

残余廃棄物：	<p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p> <p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業破棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p>
汚染容器及び包装：	<p>容器を清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p> <p>スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。</p>

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.：	—
Proper Shipping Name：	—
Class：	—
Packing Group：	—
Marine Pollutant：	Not applicable

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号：	—
品名：	—
クラス：	—
容器等級：	—
海洋汚染物質	非該当
特定の安全対策：	<p>危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。</p> <p>危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。</p> <p>危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに、最寄りの消防機関その他の関係機関に通報すること。</p> <p>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。</p>

15. 適用法令

特物及び劇物取締法	該当しない。
化学物質管理促進法(P R T R法)	該当しない。
労働安全衛生法： 通知対象物質	該当しない。
表示物質	該当しない。
有機則	該当しない。
特化則	該当しない。
消防法：	該当しない。
航空法：	該当しない。
港則法：	該当しない。
船舶安全法：	該当しない。
海洋汚染防止法：	該当しない。
廃掃法：	該当する。／特別管理産業廃棄物
水質汚濁防止法：	該当する。／水素イオン濃度

16. その他の情報

参考文献

- ・製品安全データシートの作成指針(改訂版) [(社)日本化学工業協会(平成13年10月)]
- ・JIS Z 7250:2000/化学物質等安全データシート (MSDS)
- ・毒物劇物取締全書 [じほう]
- ・14501の化学商品 [化学工業日報社]
- ・化学品別用法規総覧 [化学工業日報社]
- ・危険物船舶運送及び貯蔵規則(十一訂版) [海文堂]
- ・公害防止の技術と法規(水質編) [(社)産業公害防止協会]
- ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方 [(財)日本規格協会]
- ・各原料の製品安全データシート 安全衛生情報センター, 2009: GHS モデルMSDS

このMSDSは、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証も成すものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。

ご購入いただいた商品は、安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので、万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。

また記載の注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、特別な取り扱いをする場合は、状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払う必要があります。すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』という認識で扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方のみ、あるいはそれらの方々の、指導の下で取り扱うことを警告します。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。